

千葉県言語聴覚士会ニュース

NO.24 2007年9月30日

目 次

県民公開講座 1	施設紹介 10
診療報酬情報 2	臨床こぼれ話 11
学術局 3	理事会等報告 12
私の地域勉強会 7	事務局 15
社会局・委員会 8	求人情報 17
作業部会 9		

第2回 県民公開講座が開催されました

平成19年9月2日(日)に帝京平成大学専門学校(千葉市美浜区)で「第2回県民公開講座」が開催されました。内容はシンポジウム「発達障害児への支援」と講演「失語症の人への支援」でした。皆様のご協力で、144名(会員25名、一般119名)の方々に参加していただきました。

参加者からは、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

シンポジウム

- ・各地の状況を知ることができてよかった(教員)
- ・自由な発想で連携を図り、より良いものをつくることが求められていると強く感じた(教員)

講演

- ・失語症の認識を新たにしました
- ・失語症会話パートナーについて詳しく知りたい(ご家族)

本講座の準備段階から関わり、当日もスタッフとして働きながらシンポジウム・講演ともに拝聴した会員は、次のような感想を寄せています。

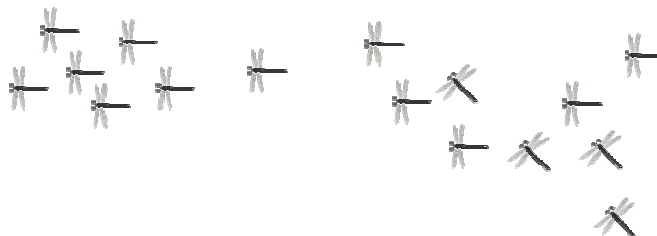
『本講座では、文部科学省は...、千葉県教育庁は...、教育・研究機関は...、現場の言語聴覚士は...、そして地域の方々は...と、様々な視点からのお話を聞くことができました。それぞれの立場で、知らないことが多いことを発見する機会にもなりました。多くの考えに出会いたい、もっと影響を受け自分を高めたい、相手にとってプラスとなるなら自分たちからも影響を受けてほしい、そんな想いをもって参加した方もいると思います。自分以外の視点に「触れる・知る」ことのできた講座でした。』

シンポジウムでは、現在、特別支援教育の中で言語聴覚士の活動に追い風が吹いていることを知り、その風を受けて大きく前進するためには、外の世界を知り、外からの影響力を分析することが必要だと感じました。

講演では、医療機関での失語症治療が終わった後の長い人生の中で、地域社会が失語症者をどのように支えていけばいいのか、そのための1つの手段である失語症会話パートナーの役割や重要性を考えさせられました。』

今回の公開講座のテーマは、昨年に引き続き「県民みんなで考えよう 豊かなコミュニケーションを！」でした。喜びを共有できるコミュニケーションの実現を目指して、「かかわり合う」機会を活用し、コミュニケーションの場を拡げていきましょう。

今年度、開催にご協力をいただいた皆様に感謝いたします。次年度以降も県民公開講座の開催を予定していますので、引き続きご支援くださいますようお願いいたします。



【速報】診療報酬情報のお知らせ

言語聴覚療法において医療保険と介護保険の併用が認められる場合について、厚生労働省より日本語聴覚士協会宛に回答がありましたのでお知らせいたします。以下の通りです。

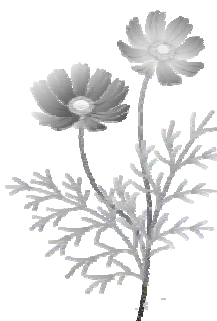
医療保険と介護保険の併用については原則禁止となっておりますが、言語聴覚療法においては、以下のような運用になりますのでお知らせいたします。（厚生労働省回答）

なお、この件についてはQ & Aとして明記はされていません。

医療保険において言語聴覚療法を実施している疾患が、失語症などの疾患別リハビリテーションの算定日数上限の除外対象疾患であり、当該算定日数上限を超えて疾患別リハビリテーションを行っている場合には、同一の疾患等であっても、

- 言語療法を医療保険の脳血管疾患等リハビリテーション、
- その他を介護保険の通所リハビリテーション

を実施することは認められる。



学術局から

1. 第3回研修会のお知らせ

* 日時：平成19年11月11日(日) <小児> 9時30分～12時00分

<成人> 13時00分～16時40分

* 会場：千葉市療育センタ - 2階 第1・2会議室 1階 体育館

* 内容：

時間	会場	内容(症例検討、研究発表、情報交換会)	助言者
9:30 ～ 11:50	第1・2会議室	「異なる教育環境で育つ聴覚障害児の自己に対する認識～難聴学級通級児と聾学校在籍児を比較して～」 千葉県立千葉聾学校教諭 田原 佳子	目白大学 教授 齋藤 佐和 先生
～ 12:00		「音声発信困難な事例へのAAC手段を用いた指導の経過について」 のぞみ牧場学園 言語聴覚士 木下 亜紀	八千代市ことばと発達の相談室 言語聴覚士 那須 道子 先生
～ 12:00		情 報 交 換 会	
13:00 ～ 15:00	体育館	「訪問リハビリにおけるSTの役割 ～軽度失語症一例をとおして～」 千葉南病院 言語聴覚士 菅原 奈津子	千葉大学医学部附属病院 言語聴覚士 長谷川 啓子 先生
～ 16:40		「脳梗塞により失文法を呈した一例」 化学療法研究所附属病院 言語聴覚士 田中 敏恵	千葉県千葉リハビリテーション センター 理学療法士 村山 尊司 先生
～ 16:40		情 報 交 換 会	

* 申し込み：同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。

2. 平成19年度 第2回研修会報告

平成19年7月22日(日)千葉大学医学部附属病院にて平成19年度第2回研修会を開催しました。今回は小児と成人、制度の3分科会で講演会を行いました。

小児分科会は「学習障害」、成人分科会は「摂食・嚥下リハビリテーション」、制度分科会は「障害者自立支援法」の演題で行いました。

参加者は75名(うち会員62人、会員外13人)でした。研修会の概要と、当日行ったアンケートの結果の一部を紹介します。

< 研修会の概要 >

演題：学習障害児への指導再考

講師 前川 久男 先生（筑波大学 人間総合科学科 教授）

ヴィゴツキーにおける内言について 講師の論文紹介：Aleksandr R.Luria の神経心理学の哲学的背景 講師の研究内容を簡潔に紹介：今夏、完成した検査法「DN - C A S」制作の軌跡、「情動」と脳の関係性、講師の先生の長い人生の体験談を例にとりながら、遂行機能と意欲の関係などにも触れられ、学習には意欲の喚起が重要な位置をしめる、という内容でした。

演題：摂食・嚥下リハビリテーションの実践

講師 大塚 義顕 先生（千葉東病院 歯科医長 歯科医師）

摂食・嚥下機能の解剖・生理 摂食・嚥下機能の評価法および訓練法 症例を通じた摂食・嚥下リハビリテーションの実践、という内容でした。特に老人保健施設に勤める会員の症例ビデオをもとに、その評価と訓練方法についての解説が得られました。歯科ならではのガムラビング法の実践の紹介なども行われました。

演題：STが語る障害者自立支援法の現在

講師 竹中 啓介 先生（我孫子市障害者福祉センター 言語聴覚士）

「支援事業におけるサポートの実践」

自立支援法以前の支援費制度とは 自立支援法のポイント 自立支援法における自立訓練・給付・支援、という内容でした。複雑な障害者自立支援法の概要について、歴史的経緯や問題点も含めて、知ることができました。

アンケート結果

回答者 44 名

< 研修会に参加していかがでしたか？ >

とても良かった 34 名、普通 5 名、期待していた内容と異なった 4 名、無回答 1 名

< 具体的に >

- ・ 「摂食・嚥下リハビリテーションの実践」は特に勉強となる内容だった。
- ・ 老健施設での訓練においてすぐに役立つ内容でした。参考にさせていただきたいと思います。
- ・ 先生からの症例提示だけでなく、参加した方からの症例相談スタイルはとても良かったです。
- ・ 具体的で臨床的な訓練・評価内容がよかった。動画でわかりやすかった。（3 人）
- ・ 老健での ST の嚥下訓練に関してもう少し話を聞きたかった。
- ・ 普段聞けないお話を聞くことができた。
- ・ 前川先生の「ヴィゴツキーにおける内言」のお話は全般的に興味深くまた感慨深く伺いました。

< 研修会の感想 >

成人部会

- ・ 歯科の先生方がどのくらいの頻度で患者さんと関わっているかや ST の他、他部門のスタッフとどのように関わられているかも聞いてみたかったです。他の摂食・嚥下障害の講習会とは異なった視点もあり、高齢の摂食・嚥下障害を持った方へのアプローチを改めて考える機会となりました。
- ・ 開口障害、高齢で自発的な運動が持続しにくい例に他動的訓練を行うなど、よく直面する症例について具体的な訓練法を知ることができ、とても勉強になりました。
- ・ 摂食・嚥下障害の患者さんへの訓練法のなかで実際に行っていない訓練法があったので参考になりました。もう少し、具体的なお話があったら一層良かったと思います。
- ・ 今日頂いた参考資料を明日からの訓練に参考にさせていただきます。他職種との連携をもう少し考

え直さなければ真の評価にもならないことを再確認させられました。

- ・ 教えていただいた方法、ガムラビング等、試してみたいと思いました。施設での嚥下などは教えていただける機会が少ないので勉強になりました。
- ・ 基礎的な解剖、機能の知識から実際のアドバイスまで、網羅されており勉強になりました。ビデオを見ながらの症例検討はとてもわかりやすかった。ありがとうございました。
- ・ 同じことの説明でも歯科という専門からだ用語も違って、よりわかりやすかった。

小児部会

- ・ 意欲や目標が大切であるという小児に限らず成人分野でもとても重要な話を聞けてよかったです。
- ・ 難しいけれど臨床に対する姿勢を振り返る機会となりました。
- ・ 演目とは異なりましたが、先生の研究への情熱や研修者としての誇りを垣間見られ、忘れられない講演になりそうです。
- ・ 最近の特別支援の動きの中でもややもやとしていたところに光が差し込んできたような気持ちになりました。ひとりの人と関わるということを大切にしていきたいと思います。
- ・ 日々、考えているつもりでも見えていないことがたくさんあると気づきました。なんとなく、もやもやとしている部分が、これから考えていくべき方向がわかった気がします。
- ・ 人間として人と人との関わりの基礎について改めて考え直す良い機会となりました。
- ・ 「言葉」というものを最初に定義していただければ、もっと分かりやすかった。「内言＝非言語的な部分も含めた全ての内的情動」だと思っていたので、それとの違いがよくわからなかった。心理学的過ぎて、臨床に活かせるかどうか……。後半部分の「情動・意欲」というもの「快」の状態が脳の働きを促すという部分について改めて大切にしていきたいと感じることができた。
- ・ 資料や話はとても興味深かった。脳について考えてみたいと思った（ルリヤの文献など）。

制度部会

- ・ 自立支援法を知ることができて良かった。利用している患者様の話などを聞けるとよかったです。
- ・ 自分が住んでいる地域、働いている地域のサービスを知らないことを痛感しました。STとしてだけでなく、住民としても情報を得るようにしたいと思いました。
- ・ 何につけても障害者、高齢者の負担増の傾向が強く頭が痛い思いがします。地域支援サービスも制度の使い方が地域によって異なり、サービスの質も違うことに思い悩みます。
- ・ 手帳の取れない人で障害を持っている方への支援が難しいと日頃感じました。まだ、支援を有効に活用するのは難しいと思いました。市職員が実体を把握していないこともあると感じることがあります。市の方から説明していただける機会があれば良いのですが……。これをきっかけに色々と調べたいと感じました。
- ・ 我孫子市の取り組みは素晴らしいと思うが、これは市職員としてSTが雇用されている自治体だからこそで、県内（国内）では例外的だと思う。そうでない大半の地域でサービスを改善するにはどうすればよいかを考えました。障害者自立支援法については漠然としていたものが整理されてよかった。
- ・ 法律の整理になりました。これからも制度の勉強会、講演会をしてほしいです（他1名）。例えば、国際障害者分類（改訂）におけるコミュニケーション障害児者へのサービスの考え方など。

<今後の研修会・県士会についての意見>

- ・ 幼児の吃音についての講演や失語症の評価のポイントや訓練の方法などが聞きたいと思っています。
- ・ 県外ですが、また参加させていただきたいと存じます。

学術局より <研修会を終えて>

今回は初めて分科会方式を採用し、小児部会と成人部会は同時並行開催、つづく制度部会は合同開催を試みました。会員の皆様から研修希望の多かった「摂食・嚥下」、「学習障害」、「障害者自立支援法」をとりあげました。

前川先生からは臨床家としての基本姿勢を学びました。大塚先生からは摂食・嚥下の基本を学び、さらに1月の症例検討会では、具体的な会員の症例への助言をいただきます。竹中先生は制度の複雑な話

を分かりやすく伝えていただき、S Tが行政に在職している市の取り組みのすばらしさを感じました。
今回の研修会も患者様や利用者の方々により良い対応ができるように配慮しましたが、いかがでしたでしょうか。皆様の職場での明日からの取り組みの一助になれるよう願っております。

3. 研修会ビデオの貸し出しと資料の送付

1) ビデオの貸し出し

これまでに実施した研修会のビデオを貸し出しています。下記の要領でお申し込みください。

方 法：返信用封筒（B5またはA4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（ビデオ1本270円分、2本390円分）を貼り、下記宛にお送りください。

宛 先：〒272-8516 千葉県市川市国府台1-7-1

国立精神・神経センター国府台病院 四方田 博英

貸し出しビデオ：対象となる研修会の詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

最近の研修会ビデオは「摂食・嚥下リハビリテーションの実際」、「S Tの語る障害者自立支援法の現在」、「小児と成人の高次脳機能障害支援モデル事業から学ぶこと～理論と実践から～」、「シンポジウム 軽度発達障害児への支援」、「きこえの障害の早期発見のために」、「頸部聴診法による摂食・嚥下の診断」です。

貸出期間：1ヶ月

* 貸し出しについての注意 *

ビデオの販売はしません。ダビングは禁止です。ビデオを紛失、破損した場合はご連絡ください。ビデオテープの代金を弁償していただきます。

2) 資料の送付

希望者に研修会資料を配布しています。返信用封筒（A4サイズ）に住所、氏名を書き、切手（200円分）を貼りお送りください。宛先はビデオ貸し出しと同様です。対象となる研修会についての詳細は、県士会ホームページをご覧ください。

なお、最近の資料は、「学習障害児への指導再考」、「摂食・嚥下リハビリテーションの実際」、「S Tが語る障害者自立支援法の現在」、「小児と成人の高次脳機能障害支援モデル事業から学ぶこと～理論と実践から～」、「シンポジウム 軽度発達障害児への支援」、「きこえの障害の早期発見のために」です。

4. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。同封の「地域勉強会一覧」「小児多職種合同勉強会」をご参照の上、奮ってご参加ください。また、ホームページではこの情報について随時更新を行っていますので、ぜひご利用ください。



特集：私の地域勉強会

県内各地で行われている勉強会を順番に紹介しています。今回は、「発達障害学習会（東葛飾地域）」です。

発達障害学習会（東葛飾地域）

この学習会は、「子どもの理解と援助の手だてを学ぶ * 一人で悩まずみんなで考えよう * 」ということコンセプトに、教職員、相談機関、療育機関等の関係者を対象とし、2000年（平成12年）から開かれています。

会のはじまりは、学校のなかで気になる子ども達がいる、その子ども達への理解や対応はこれまでの教育相談や生徒指導の考え方だけではどうもうまいかない、担任の先生が苦戦し悩み疲れている・・・、そのような状況のなかで、ある学校で始まった数人の教職員の集まりでした。まだ、「特別支援教育」や「発達障害」ということはほとんど耳にしない頃でした。困っている子ども達、悩んでいる教職員は一人ではない。「地域に勉強する場を作ろう、地域のネットワークの場を作ろう」との思いから、当時関係していたスクールカウンセラー（臨床心理士）養護教諭、通常学級や特殊学級（現在：特別支援学級）の担任、養護学校（現在：特別支援学校）教員が世話人となり、学習会を発足しました。

年4回、土曜日の午後、千葉県立柏特別支援学校を会場に開催しています。地域における発達障害に関する学習会の趣旨を理解し、特別支援学校から施設を提供してもらえたことは、会を継続するにあたり大きな助けとなりました。

学習会は、講義（講演）を基本としています。自閉症、ADHD、LD等の発達障害の理解や対応に関すること、特別支援教育の体制に関すること、地域の関係機関や様々な職種についての理解に関すること等が主なテーマです。今年の第1回目（6月）の学習会には、千葉県言語聴覚士会の特別支援教育委員会のメンバーが講師として、病院における言語訓練、就学前の療育機関、小学校のこたばの教室における現状や思い等を話して下さいました。学校以外の職場の状況を知ったり、他機関・他種職とのつながりの重要性を受け止めたりするととても良い機会となりました。

学習会では、講義に加え、講師や参加者との出会い、グループ協議や休憩時間での情報交換も、参加者にとって大切な時間、学習会の意味となっています。学習会が終わった後の会場は、悩みごと相談や懇親会の場となり、熱気が続きます。そして、この学習会でつながった人と人とのネットワークが、子どもを支援したり、幼稚園や小・中学校等を支援したりする時に、活着ていることを感じています。地域で開催する学習会の意義を改めて感じるとともに、参加者や世話人のエネルギーとなっています。

また、平成17年からは、＜NPO法人地域学校精神保健福祉ネットワーク＞と共催し、学習会を運営しています。このNPO団体は、地域の児童・青少年の健全な成長をサポートするために立ち上がったネットワークです。メンバーには、教師・児童相談所や保健所といった公的専門機関の職員・カウンセラー・医師・研究者・サポート校やフリースクールの職員など、教育や精神保健、医療、福祉の分野で青少年にかかわっている人々がたくさん参加しています。

さらに今後も、知恵と元気を得ることができる学習会でありたいと願っています。言語聴覚士の方のご参加をお待ちしております。

（千葉県立柏特別支援学校 高畑 和子）



社会局から

1. 関係諸団体への訪問および文書送付を行いました

5 月下旬から 7 月中旬にかけて、宇野会長と社会局員（斉藤公人、常田、村西、山本）が交替で関係諸団体を訪問いたしました。会長就任挨拶文と 9 種の資料を持参の上で下記を訪問、千葉県言語聴覚士会の活動を報告して、本会へのご支援ご指導をお願いいたしました。

文書送付は、会長就任挨拶文と 5 種の資料を同封の上、市町村役所や教育委員会、他道府県の言語聴覚士会等、148 か所に送付いたしました。

今後にも必要に応じて関係諸団体への訪問および文書送付を行います。

訪問先（訪問順）：

社団法人 千葉県社会福祉士会

社団法人 千葉県医師会

社会福祉法人 千葉県社会福祉協議会

社団法人 千葉県看護協会

社団法人 千葉県歯科医師会

千葉県庁（千葉県健康福祉部 医療整備課・障害福祉課・高齢者福祉課 ほか）

社団法人 日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会

2. 平成 19 年度「千葉県 P T ・ O T ・ S T 士会役員連絡会」が開かれました

8 月 29 日（水）18 時 30 分～19 時 30 分 千葉県理学療法士会事務所に於て「千葉県 P T ・ O T ・ S T 士会役員連絡会」が開催されました。主な協議事項は次の通りです。

- ・ 昨年度の事業報告
- ・ 今年度の会員数、会員所属施設数、事業計画
- ・ 第 1 回リハビリテーション公開講座の開催報告
- ・ 第 2 回リハビリテーション公開講座の開催計画（会場・時期）

第 2 回千葉県リハビリテーション公開講座の企画については、今後各士会から選出された運営委員で協議を重ね、準備を行うことになりました。千葉県言語聴覚士会からは、斉藤公人理事（千葉市大宮学園）と神作暁美氏（千葉県循環器病センター）が理事会の承認を得て運営委員として参加することになりました。

委員会から

特別支援教育委員会

特別支援教育と発達障害

平成 19 年度から本格実施を迎えた「特別支援教育」は、特別支援学校（旧：養護学校）や特別支援学級（旧：特殊学級）通級による指導における対象を、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、情緒障害等に加え、通常学級に在籍する L D ・ A D H D ・ 高機能自閉症等へも指導・支援を広げるものです。文部科学省はこの 3 月から、「L D ・ A D H D ・ 高機能自閉症等」という表記を、発達障害者支援法（平成 16 年 12 月公布）の定義による「発達障害」との表記に換え

ることとなりました。省庁の連携による言葉の定義、このことには大きな意義があると思います。併せて、「軽度発達障害」という表記は、意味する範囲が必ずしも明確ではないこと等の理由から使用しないこととなりました。詳しくは、文部科学省のホームページ（特別支援教育に関すること http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm）をご覧ください。

また、発達障害児に対して、障害を早期に見出し適切な発達支援を行なうことが重要です。そこで、特別支援教育委員会では、乳幼児期のお子さんの子育て中の皆さんを対象とした発達障害のパンフレットを作成中です。言語聴覚士会として、子育てに係る保護者等の方々の不安や心配をやわらげ、お子さんの健やかな成長を手助けできるようにと考えています。

実態調査委員会

実態調査委員会では、維持期の言語聴覚療法の実態を把握するため、県内の介護保険算定対象の252施設（老人保健施設、療養型医療施設、デイケア実施施設など）に対し、STの在籍および活動状況について、ファックスによるアンケート調査を実施しました。調査期間は8月27日から9月14日で、現在集計中です。結果は報告書および県士会ホームページにてご報告する予定です。アンケート対象施設の皆様、ご協力ありがとうございました。

作業部会から

リハビリテーション公開講座作業部会

第1回リハビリテーション公開講座 開催される！

7月8日（日）に帝京平成大学専門学校において、千葉県理学療法士会・千葉県作業療法士会・千葉県言語聴覚士会主催、千葉県リハビリテーション医学懇話会協賛の「第1回リハビリテーション公開講座」が開催され、100名を越える方々に参加していただきました。

今回「病院におけるリハビリテーション医学～急性期から回復期まで～」をテーマに、千葉県理学療法士会・千葉県作業療法士会・千葉県言語聴覚士会が初めて合同で公開講座を開催することができたことは、千葉県における今後のリハビリテーション職種の発展のためにも大変有意義であったと考えています。会員の皆様にはポスター掲示等のご協力や当日のお手伝いをいただき感謝いたします。

（付記）今回の成果を踏まえ、次年度も3士会合同主催で第2回リハビリテーション公開講座を開催することになりましたことをご報告いたします。（理事会）

生涯学習プログラム基礎講座作業部会

『生涯学習プログラム基礎講座』千葉県版開催について

11月25日（日）、12月9日（日）に基礎講座を開催する予定です。5月より申し込み受付を開始しましたが、8月現在、定員のほぼ半分の応募でまだ余裕があります。今後も引き続き受け付けますので、申し込みがお済みでない方はぜひご応募ください。

申し込みについては、同封の「生涯学習プログラム 基礎講座」千葉県版開催のご案内をご利用ください。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

施設紹介

我孫子市教育研究所 S T 高橋 理恵

私が所属する我孫子市教育研究所は、教育委員会に属する機関で、教職員の教育相談活動や特別支援教育に関する研修企画、教材開発、不適応指導教室の運営管理、心の教室相談員や学級支援員の配置や事務管理、相談事業、そして特別支援教育に関する業務を扱っています。また、我孫子市では福祉総合計画の中に「療育・教育システムの整備」という課題を掲げており、特に特別支援教育システムの整備の一翼を担っています。

職員体制は、所長、指導主事2名、心理相談員（非常勤）2名、就学相談員（非常勤）1名、発達相談員（常勤）2名です。私はこの発達相談員として勤務しています。

私のメインの仕事は相談業務とSST（ソーシャルスキルトレーニング）です。相談業務は、検査によるアセスメントを行った後、保護者や教職員へのコンサルテーションを行います。必要な援助については学校を中心に考えてもらうので、継続的に関わることは、ほとんどありません。しかし、SSTは1年間を単位として継続的に行うので、子ども達の変化を見ることができ、ST冥利に尽きます。

私は研究所に異動し、軽度発達障害の子ども達に関わり始めて4年目になりました。これまで「こども発達センター」で学んだ知識や技術だけでは不足していることが多く、改めて勉強している日々です。例えば、二次障害のことや就労を視野に入れた進路指導などがそれに該当します。療育という観点だけでなく、福祉、司法、労働といった幅広い知識の必要を感じています。また、私たちSTは、個々のアセスメントや保護者へのコンサルテーションは得意ですが、その子が過ごし、互いに影響を与え合う学級集団のアセスメントや教職員へのコンサルテーションは不慣れなところがあります。そういう意味では、今までのSTの枠よりも大きい枠で仕事をしているように感じています。

教育研究所が、学校と地域を結ぶ「特別支援教育センター」としての役割を果たせるよう、今後も精進していきたいと思っています。

〒270-1132 我孫子市湖北台4-3-1 TEL: 04-7187-4600

総泉病院 S T 羽場 依子

総泉病院は、千葉市の豊かな自然に囲まれた場所に位置しています。医療保険病棟と介護保険病棟、計358床の高齢者を主体とする病院です。

当院のリハビリテーション科は現在ST2名、PT15名、OT7名で構成されています。病棟担当制を導入し、患者様の生活の場に介入したリハビリを行っています。STとしては、失語症・構音障害・高次脳機能障害・摂食嚥下障害の方を対象に訓練を行っています。当院に入院されている患者様は維持期にあたる方が多く、機能面へのアプローチだけではなく、代償手段や環境設定といった面からのアプローチが重要となってきます。私も新卒で入職したばかりで、患者様の「生活の質」の向上を考える上で悩む事も多いですが、その分学ぶ事もたくさんあります。

摂食・嚥下面では少しでも経口から摂取したいという患者様に関わることが多く、VF（嚥下造影）検査を活用し、少しでもその希望が叶えられるよう取り組んでいます。また、NST（栄養サポートチーム）を始めとし、歯科医師・歯科衛生士との連携を図った幅広いアプローチを行っています。

6月より通所リハビリも開始となり、今後の拡大や訪問リハビリへの展開も予定しています。



〒265-0073 千葉市若葉区更科町2592 TEL: 043-237-5001

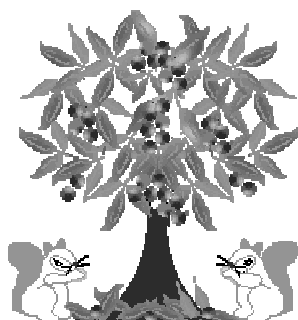
臨床こぼれ話

定年を前にして想うこと

私は、来年3月で定年を迎えます。臨床こぼれ話とは少し異なりますが、最近想っている事を書かせていただきます。当時の千葉県社会福祉事業団療育園という肢体不自由児施設で仕事を始めました。殆どが脳性麻痺のお子さんで、今では当たり前のPT、OT、STなどの専門職はおらず、頼りになるのは専門書や勉強会という所からの出発でした。千葉県職員として就職された鈴木さん（現エスコアル社長）による講義やその後の交流会がエネルギー源でした。現在のSTの資格制度ができるまでの過程を知る者としては、養成校の増設が相次ぐ現在は昔日の感があります。又、重い脳性麻痺のお子さんが多く、療育のあり方を色々試行していた中で、リハスタッフと指導員、保育士が同じ部署になりリハスタッフも遅番・早番体制で生活の中で見ていく時期がありました。小学校高学年の子供たちから投げかけられたことばが今でも自分を振り返る原点になっています。それは、「俺たちは食べて寝るだけのウンチ製造器じゃない」、「訓練だ、訓練だって俺たちだけが頑張らなくちゃいけないんだ」、「体が治れば差別がないのか」、「世の中変わるのか」のことばの中に職員や家族に対する批判があったと思います。もう一つは小児の施設ですから、成人の脳性麻痺の方との交流を持ちたいと思い、施設長と同人誌仲間である方にお会いした時のことです。その方の体験を色々お聞きした後で「ところで、いつまで仕事を続けますか。障害者は一生障害と付き合わなければいけないが、職員はいつでも辞められますからね。」と言われました。その時、子供が大人になるまで付き合いたいと思いました。3年前から、成人の方を主に仕事をしていますがこの2つの事柄が定年まで仕事を続けてきた要因になっています。

仕事を続けていく上で、一緒に働く仲間を大切にしていく事は、チームワークが必要なリハビリテーションの職場では重要な事と思います。どんな職種の人でも仲間です。困ったことがあったらみんなの力で解決する。特に女性が多い職場では、仕事が続けられるように結婚・育児・介護などの制度や職場保育所などを作っていく。みんながつながり働き易い職場にすることが、ミスや事故をなくし良い臨床も出来ると思います。残業が多く、体を壊したり、うつになったりする職員も出てきています。雇用形態も多種になり、非常勤職員も多くなっています。こんな時こそみんなの繋がりがが必要です。労働組合の役員もしてきましたが、指定管理者制度が導入された時、職員や患者さんが一緒に社会に働きかけ、事業団が指定管理者として継続運営出来るようになりました。この時程みんなの繋がりの大切さを感じたことはありませんでした。色々な人と繋がりながら、働き易い、職場作り目指して行きましょう。

千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション療法部 言語聴覚科 竝木 美恵子



理事会・委員会報告

平成19年度 理事会

第4回

日時：2007年5月27日(日)10:00～11:00 場所：千葉市黒砂公民館 会議室

出席者：宇野、斉藤公人、斉藤敬子、畠山、山口、山本(以上理事6名) 家老(書記)

1. 協議事項

- (事務局より)・新入会員・会友承認 ・第7回総会議事録承認 ・平成18年度事業報告書
- ・県士会ニュース構成案 ・ニュース掲載広告承認 ・県士会リーフレット管理 ・メール承認手続き
- ・事務所運営 ・日本言語聴覚士協会地方組織委員推挙
- (学術局より)・日本言語聴覚士協会への活動支援補助金申請 ・第2回研修会スケジュール案
- (社会局より)・名入りゴム印作成 ・慶弔金
- (その他)・リハビリ公開講座の講演内容 ・県民公開講座案内チラシ案

2. 報告事項

- (事務局より)・到着郵送物 ・第3回理事会議事録承認(旧理事) ・第7回総会反省
- (学術局より)・第1回研修会報告及び反省

第5回

日時：2007年6月17日(日)10:12～12:20 場所：千葉市黒砂公民館 会議室

出席者：宇野、斉藤公人、斉藤敬子、斉藤順子、笹本、畠山、山口、山本(以上理事8名) 塘(基礎講座作業部会長)、野島(県民公開講座作業部会長)、三原(書記)

1. 協議事項

- (事務局より)・入退会承認 ・平成19年度第4回理事会議事録承認 ・事務所に使用する諸手続き
- ・県士会ニュース第23号編集進捗状況他 ・旅費支払手続き ・日本言語聴覚士協会連絡網担当
- ・担当理事権限 ・文化の日千葉県功労者表彰の候補者推薦
- (社会局より)・関係諸機関への訪問及び文書送付の予定報告
- (組織検討委員会より)・組織検討委員会設置計画案
- (基礎講座作業部会より)・千葉県版生涯学習プログラム基礎講座の手続き及び案内資料
- (県民公開講座作業部会より)・第2回千葉県言語聴覚士会県民公開講座実施要綱案他
- (リハビリテーション公開講座作業部会より)・第1回リハビリテーション公開講座案他
- (その他)・求人情報 ・県士会ニュース原稿の取り扱い

2. 報告事項

- (事務局より)・到着郵便物 ・協会都道府県士会代表者会議及び地域職能組織協議会
- ・千葉県千葉リハビリテーションセンター公開講座の協賛 ・県士会ニュース広告
- ・個人情報データベース取り扱い
- (学術局より)・第2回研修会スケジュール
- (その他)・各種委員会及び部局の議事録

第6回

日時：2007年7月8日(日)9:00～11:00 場所：千葉市黒砂公民館 講習室

出席者：宇野、斉藤公人、斉藤敬子、斉藤順子、笹本、畠山、山本(以上理事7名) 野島(県民公開講座作業部会長) 久保木(書記)

1. 協議事項

- (事務局より)・入退会承認 ・平成19年度第5回理事会議事録承認 ・県士会ニュース第24号構成案
- ・事務所管理 ・医療功労者の推薦 ・失語症友の会実態調査アンケート
- ・日本音声言語医学会からの総会学会広告協力依頼

- (学術局より)・研修会場での年会費取り扱い
- (社会局より)・慶弔金
- (組織検討委員会より)・平成 19 年度第 1 回議事録案
- (リハビリテーション公開講座作業部会より)・会計報告
- (県民公開講座作業部会より)・当日スケジュール

2. 報告事項

- (事務局より)・到着郵便物
- (社会局より)・関係諸機関への訪問及び文書送付の報告と今後の予定 ・平成 19 年度第 1 回広報部会議事録

平成 19 年度 学術局

第 1 回

日時：2007 年 6 月 10 日 (日) 10:00～12:00 場所：プラザ菜の花 2 階 サークル室 palA 室 千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：大足、大浦、神作、木下、笹本、田野、中山、長岐、野島、前里、前田、宮下、山口、寄本 (以上局員 12 名、理事 2 名)

- ・平成 19 年度年間研修計画、役割分担 ・第 2 回研修会スケジュールの確認、役割分担
- ・症例検討会 (第 3・4 回研修会) 助言者、症例発表者の検討 ・研修希望者の有無及び調査概要の検討

第 2 回

日時：2007 年 7 月 22 日 (日) 17:00～19:00 場所：千葉大学医学部附属病院 3 階 第 2 講堂

出席者：大足、大浦、神作、木下、笹本、中山、長岐、野島、前田、山口、四方田、寄本 (以上局員 10 名、理事 2 名)

- ・第 1 回学術局議事録承認 ・第 2 回研修会の反省 ・今後の研修担当の確認 ・第 3 回研修会計画
- ・第 4 回講師、症例検討者検討 ・平成 19 年度研修会アンケート項目の検討 ・組織変更基礎資料作成

平成 19 年度 社会局

第 1 回

日時：2007 年 6 月 30 日 (土) 15:00～17:00 場所：高洲コミュニティーセンター

出席者：荒木、大石、加藤、日下、斉藤、相楽 (以上 6 名)

- ・広報部活動内容

平成 19 年度 実態調査委員会

第 1 回

日時：2007 年 6 月 9 日 (土) 17:00～20:00 場所：高洲コミュニティーセンター

出席者：新井、勝又、酒井、篠原 (以上 4 名)

- ・前年度調査結果報告と今年度への提言 ・役割分担 ・今年度の活動

平成 19 年度 特別支援教育委員会

第 2 回

日時：2007 年 7 月 22 日 (日) 9:30～12:15 場所：千葉大学医学部附属病院リハビリテーション部 言語聴覚室

出席者：和泉澤、太田、古森、高畑、二ノ形、野島、長谷川、宮本 (以上 8 名)

- ・パンフレット内容検討 ・学校現場 ST との連携 ・ニュース完成手続き

千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課訪問

日時：2007年8月9日（水）17：15～18：30 場所：千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課（8階）

出席者：太田、野島、長谷川、山本（理事）（以上4名）

・県民公開講座 ・特別支援教育への取り組み

平成19年度 新生児聴覚スクリーニング検討委員会

第1回

日時：2007年6月23日（土）13：00～15：00 場所：千葉市療育センター

出席者：猪野、岡田、荻洲、高橋乃理夫、高橋典子（以上5名）

・委員会の活動内容 ・平成19年度活動方針 ・予算及び会計 ・メーリングリスト
・平成19年度役割分担 ・平成19年度活動方針 ・実施の予定スケジュール ・討議内容
・各機関の協力確認 ・広報、啓発活動

第2回

日時：2007年7月8日（日）10：00～12：00 場所：千葉市療育センター

出席者：猪野、岡田、荻洲、佐藤、高橋乃理夫、高橋典子、本宮、丸橋（以上8名）

・第1回議事録 ・実施調査 ・設問について

平成19年度 組織検討委員会

第1回

日時：2007年6月24日（日）14：00～15：30 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：番、平山、山本、鎗田、吉田（以上5名）

・千葉県言語聴覚士会と日本言語聴覚士協会との関係 ・県士会の組織検討 ・他団体の情報収集
・公益法人改革の進捗状況

平成19年度 県民公開講座作業部会

第1回

日時：2007年7月29日（日）13：18～15：20 場所：千葉県言語聴覚士会事務所

出席者：岡田、野島、藤田、遊佐（以上4名）

・県民公開講座の概要の説明と役割分担の確認 ・参加者の募集 ・外部資料に関して ・当日日程

平成19年度 リハビリテーション公開講座作業部会

第1回

日時：2007年7月20日（金） 場所：千葉コミュニティーセンターB1（理学療法士会事務所）

出席者：吉田（理学療法士会） 福田（作業療法士会） 野島（言語聴覚士会） 椛島（作業療法士会） 竝木（言語聴覚士会） 吉永（リハ医学懇話会） 坂本（理学療法士会）（以上7名）

・公開講座反省会 ・第2回リハビリテーション公開講座

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）

事務局から

事務局が移転しました

本年 5 月より当会の事務局が下記の場所に移転となりました。

住所： 〒263 - 0023 千葉市稲毛区緑町 2 - 1 - 9 103 号室

(最寄り駅 京成線みどり台駅または JR 総武線西千葉駅)

TEL/FAX： 043 - 243 - 2524

E-mail： chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ： <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード：affordance

各種申請種類の送付や問い合わせ先になります。お間違えのないようお願いいたします。



1. 入会のお誘い

新たに言語聴覚士となられた方や、まだ当会にご入会いただいていない方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会のお勧めをお願いいたします。入会方法は当会のホームページでご案内申し上げます。

2. 年会費納入のお願い

平成 19 年度の年会費をまだお支払いいただいていない方は、至急お振込みくださいますよう、お願いいたします。本会の会則により、2 年以上会費未納の場合、退会処分となりますのでご注意ください。

3. 年会費納入方法についてのお知らせ

現在年会費の納入方法は、郵便振込または研修会開催日の現金によるお支払いの 2 種類ですが、現金でのお支払いは総会開催日(第 1 回研修会)のみと変更させていただきます。郵便振替によるお支払いにご協力をお願いいたします。

4. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便または F A X にてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は県士会のホームページよりダウンロードすることもできます。県士会からの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力をお願いいたします。

5. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

6. 新入会員のお知らせ (敬称略)

会員数：正会員 290名 会友 40名 賛助会員 6団体 + 1名

(平成19年8月26日 理事会承認分まで)

…正会員…

山田 典彦(流山総合病院)
鈴木 和子(千葉市障害者福祉センター)
稲葉 知子(小張総合病院)
堀切 綾乃(塩田病院)
太良木 亜美(東京歯科大学市川総合病院)
北森 さゆり(八千代リハビリテーション病院)

田山 明香(大野中央病院)
小池 学(千葉リハビリテーションセンター)
佐藤 陽子(千葉徳洲会病院)
橋本 由香(船橋総合病院)
佐藤 恵美子(松戸神経内科)

…会友…

高澤 和泉(社会福祉法人自立の家)

…賛助会員…

東京サラヤ株式会社

編集後記：今年の夏は暑い日が続きましたが、会員の皆様体調はいかがですか。まだ日中は日差しが厳しいので、体調管理には気をつけてください。また芸術と食欲の季節になりました。秋の夜長に読書を楽しんだり、外出して外気に触れ楽しむのもよいですね。



事務局

〒263-0023 千葉県稲毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX：043-243-2524

E-mail：chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ：http://chibakenshikai.moo.jp/

会員専用パスワード：affordance

..... 求人情報

詳細は千葉県言語聴覚士会ホームページをご覧ください。

(2007年9月16日現在)

医療法人社団愛友会 ナーシングプラザ流山

募集:言語聴覚士 常勤 1名

内容:介護老人保険施設での機能訓練

〒270-0144 千葉県流山市前ヶ崎248-1

電話:04-7145-0111

担当:事務部 秋谷、リハビリテーション科 後藤

医療法人社団 昌医会葛西循環器脳神経外科病院

募集:言語聴覚士 常勤 若干名(経験者)

対象:成人の脳血管疾患等による摂食嚥下障害、高次脳機能障害、構音障害

東京都江戸川区東葛西6-30-3 電話:03-5696-1611

担当:言語療法室 西畑(にしはた)、小柳津(おやいづ)

介護老人保健施設 睦沢の里

募集:言語聴覚士 1日/週での非常勤

内容:入所者及び通所者への言語訓練とその他

長生郡睦沢町大上1150番地

電話:0475-43-1222 担当:本間・石上

医療法人社団友愛会 八千代リハビリテーション病院

募集:言語聴覚士 常勤 3名程度

対象:成人失語症・構音障害・高次脳機能障害・嚥下障害

八千代市八千代台北6-7-3 電話:047-483-1555

担当:リハ部 野村

千葉県千葉リハビリテーションセンター

募集:言語聴覚士 常勤 2名(平成20年4月現在、35歳程度までで、免許取得者及び取得見込者)

対象:小児(言語発達障害、重複障害、高次脳機能障害等)

成人(失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害等)

〒266-0005 千葉市緑区誉田町1-45-2

電話:043-291-1831(内線432)

担当:総務部 御園(みその)

医療法人社団心会和 新八千代病院

募集:言語聴覚士 常勤(できれば経験者を望む)

対象:成人失語症、構音障害、高次脳機能障害、嚥下障害

千葉県八千代市米本2167 電話:047-488-3251

担当:事務長 河津、リハビリテーション科 藤田

医療法人社団誠誓会 セコメディック病院

募集:言語聴覚士 1名(経験者のみ)

対象:脳血管疾患

〒274-0053 千葉県船橋市豊富町696-1

電話:047-457-9894(総務課直通)

東京湾岸リハビリテーション病院

募集:言語聴覚士 常勤・非常勤 2名(経験者)

対象:失語、嚥下障害、高次脳機能障害等 全般

千葉県習志野市谷津4-1-1 電話:047-453-9000

担当:言語聴覚科長 小田柿、事務課 林

社会福祉法人恩賜財団 龍ヶ崎済生会病院

募集:言語聴覚士 常勤 1名

対象:高次脳機能障害、成人失語、発声・発語、摂食・嚥下

茨城県龍ヶ崎市中里1-1

電話:0297-63-7111 担当:総務課 尾形

八潮中央総合病院

募集:言語聴覚士 常勤 2名

埼玉県八潮市緑町1-41-3 電話:048-996-1131

担当:総務課人事係 市川